

令和7年度 AI・データサイエンス教育プログラムに関する自己点検・評価について

本学で開講している「AI・データサイエンス教育プログラム」に関連する授業科目等について、以下のとおり令和7年度の点検・評価をデータサイエンス教育研究開発センターで行った。

1. プログラムの実施概要

本学のAI・データサイエンス教育プログラムは、文部科学省数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル、応用基礎レベル）の認定を受け、令和4年度からは本プログラムを副専攻として設置し、学部・学年を問わず、全学生に開講している。

2. 令和7年度の状況

(1) プログラムの履修及び単位取得状況

令和5年度入学生より、リテラシーレベルの修了要件である「AIとサイエンス」が必修化されたため、今年度の総履修状況は以下のとおりであった。

AIとサイエンス

【履修者数】 3,162人 【単位取得者数】 2,989人 【単位取得率】 94.5%

なお、単位未取得者は、2025年度秋期終了時点で212名おり、内3年生が6人いるため、次年度卒業判定に関わってくることから、引き続き再履修対応が必須となっている。

次に、応用基礎レベルの修了要件である「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI基礎」、「AI基礎演習」の4科目（AI基礎演習は2年次から、他は1年次から）履修状況は、以下のとおりとなっている。 ※（ ）内は必修である理工学部除いた参考数値

データサイエンス基礎

【1～3年生】 9,377(8,602)人 【履修者数】 941(583)人 【履修者率】 10.0(6.7)%
【単位取得者数】 870人 【単位取得率】 92.4%

データエンジニアリング基礎

【1～3年生】 9,377(8,602)人 【履修者数】 569(214)人 【履修者率】 6.6(2.4)%
【単位取得者数】 513人 【単位取得率】 90.1%

AI基礎

【1～3年生】 9,377(8,602)人 【履修者数】 1,274(916)人 【履修者率】 13.5(10.6)%
【単位取得者数】 1,204人 【単位取得率】 94.5%

AI基礎演習

【2・3年生】 6,187(5,468)人 【履修者数】 411(48)人 【履修者率】 6.6(0.8)%
【単位取得者数】 376人 【単位取得率】 91.4%

(2) 学部毎のプログラム（副専攻）修了者数

令和4年度からリテラシーレベルに準拠した副専攻を設置し、今年度が初めての修了者となる。各学部の修了状況は次のとおり。

学部	修了者累計
政経学部	8
体育学部	0
理工学部	34
法学部	0
文学部	6
21世紀アジア学部	1
経営学部	1

なお、令和5年度からは応用基礎レベル修了要件である4科目「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI基礎」、「AI基礎演習」までの単位取得を副専攻修了要件としている。

(3) 各科目の成績分布等

「AIとサイエンス」、「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI基礎」、「AI基礎演習」の各科目の成績分布等については、別添のとおりである。

【別添 資料①参照】

(4) 学生による授業評価アンケート

基幹科目である「AIとサイエンス」の授業評価アンケートについて、今年度の結果は以下のとおりとなっている。

No	設問	平均値
1	シラバスの内容がこの授業によく反映されている。	4.26
2	教員の話し方・説明はわかりやすい。	4.13
3	授業の構成・内容はわかりやすい。	4.18
4	授業の進度は、内容を理解するためにちょうどいい。	4.25
5	授業で使用している資料(レジュメ・教材の提示など)は理解しやすい。	4.22
6	アクティブ・ラーニングが積極的に活用されていて、学びやすい。	4.01
7	授業の雰囲気は、集中しやすい環境である。	4.01
8	私はシラバスの内容を理解してから授業に参加している。	3.91
9	私はこの授業に関する予習・復習・課題などの授業外学修を行っている。	3.79
10	私はこの授業の授業内容が興味深く、意欲的に参加している。	4.02
11	私は授業の内容を理解できている。	4.14
12	授業のための設備・用具は、受講する上で適切である。	4.06

※アンケート回答数:1,211

※各評価の点数は最大5点

※複数コマ開講しているため、全てのアンケート結果を合算し平均値を求めた。

3. 令和7年度の自己点検・評価

(1) プログラムの履修・修得状況

基幹科目として位置付けしている「A I とサイエンス」の新入生単位取得率は94%であった。当該科目は令和5年度入学生から必修化されたが、令和6年度95%、令和5年度94%と、必修化以後安定的に高い取得率を保持している。

また、昨年度から課題となっている再履修者については、令和6年度末時点で169人（令和5年度入学生42人・令和6年度入学生127人）おり、今年度春期・秋期それぞれ再履修者コマを開講する等の対応を行った。

最終的な単位未取得者数は212人（3年生6人、2年生35人、1年生171人）となり、年次進行にともなって再履修者が増えた状態となったが、次年度卒業判定に係る3年生の単位未取得者は6人であり、令和7年度中に確実に単位取得できるよう注視が必要である。

また、応用基礎レベルに準拠した4科目「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「A I 基礎」、「A I 基礎演習」について、必修である理工学部を除いた6学部の履修状況としては、データサイエンス基礎が6.7%、データエンジニアリング基礎が2.4%、A I 基礎が10.6%、A I 基礎演習が0.8%となっており、対象学年が増えたことで母数となる学生数が増えたものの、各科目の履修率は概ね昨年度同様であった。

現状の履修率は、学校法人国士館第3次中長期事業計画における重点項目達成指標の一つ「副専攻修了者50%以上（5年目達成目標）」という数値目標に対して非常に厳しい状況であるため、副専攻として修了証が交付される点も含めて、履修率を増やすための取り組みを引き続き検討していきたい。

(2) 学修成果

基幹科目「A I とサイエンス」は2025年度単位取得率94%と高い水準であったが、内訳としても、「秀」・「優」・「良」の割合が3分の2以上を占めていることに加え、全体的な単位取得状況としても前年度比で「良」・「可」の割合が減少し、「秀」・「優」の割合が増加したため、学生の理解度も高まったことが読み取れる。

応用基礎レベル準拠の「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「A I 基礎」及び「A I 基礎演習」に関しては、学部別成績分布で、全学部「秀」・「優」取得者の割合が最も高く、理工学部だけでなく6学部の文系学生でも、比較的前向きに授業に取り組むことが出来ていたと考えられる。

各学部で成績優秀者が出ていること自体は一定の学修成果と呼べるが、次の段階として、A I ・データサイエンス教育プログラムの履修者のアセスメントテストにおけるスコア変動の分析や、主専攻においてどのように活用できるのか等の可視化については、引き続き検討が必要となっている。

この可視化により、学生自身のキャリアプランにも通じることで、(1)で述べた履修率向上も期待できることから、今後はセンター内に留まらず各学部を跨いだ文理融合教育の検討も行っていきたい。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度や後輩等他の学生への推奨度

授業評価アンケートの結果としては、5段階評価項目の平均値が昨年度全体平均3.93から4.08と上昇した。特に非常に高い評価であった設問としては、No1「シラバスの内容がこの授業によく反映されている。」、No4「授業の進度は、内容を理解するためにちょうどいい。」、No5「授業で使用している資料（レジュメ・教材の提示など）は理解しやすい。」の3つの設問で、いずれも4.20を超える高い評価であった。また、新たにNo6「アクティブ・ラーニングが積極的に活用されていて、学びやすい。」という設問が出来たが、こちらも4.01と高い回答であり、全体平均の引き上げにつながった。

これらの要因として、学部ごとにクラス分けしていることから、文系学部と理系学部とで教授法を柔軟に組み替える等、全学部必修化から3年目にして学生のレベルに応じた授業運営体制が構築出来つつあると考えられる。

他の設問に関して、No8「私はシラバスの内容を理解してから授業に参加している。」、No9「私はこの授業に関する予習・復習・課題などの授業外学修を行っている。」では、いずれも3.0点代と他の設問に比べて若干低めの評価であり、これは授業の進行度に対する自身の学修成果への不安が少なく、講義内容について一定の理解が得られていることから、シラバス内容の理解を広げる、あるいは関連内容の事前事後学修を行う等の自主的な学びの必要性を感じていない可能性がある。

応用基礎レベル必修の「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「A I 基礎」、「A I 基礎演習」4科目については、授業評価アンケートから、学生の理解度及び満足度に関する設問について平均値を算出したところ、主な設問でいずれも以下のおおりの高い数値結果となった。

「シラバスの内容がこの授業によく反映されている。」…4.43

「授業の構成・内容はわかりやすい。」…4.37

「授業の進度は、内容を理解するためにちょうどいい。」…4.40

「授業で使用している資料（レジュメ・教材の提示など）は理解しやすい。」…4.41

各科目におけるアンケートの自由記述のうち、文系学生からの意見として、

- ・授業の演習の解説はととてもわかりやすく、パソコンの操作に不慣れでもできるようになった
- ・専門的な内容でありながら、非常に平易な言葉で、理解が深まった

などの声もあったが、オンデマンド授業におけるハンズオンのやり辛さや、動画視聴の際の広告の煩わしさから、環境面での改善を求める意見もあった。

(4) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

令和5年度入学生からの基幹科目「A I とサイエンス」全学部必修化により、再履修者が毎年度積みあがっていくと運営が破綻する恐れがあるため、再・再履修者のコマ設置など、引き続き体制を整えていく必要がある。令和8年度卒業に向けては未取得者が6人残っているが、当該学生の単位取得はもとより、卒業年度を迎えるまでに単位取得出来る運営が望ましいが、今後も再履修者の状況に応じて、柔軟に対策を立てていく。

また、令和6年度応用基礎レベルの認定を受けたことから、理工学部を除く6学部の学生にも応用基礎レベルまで広く学習してもらうために、副専攻制度のPRをはじめ、所属学部での主たる学びと数理・A I ・データサイエンス教育での学びが融合して、各学部でどのようなスキルが身につくか等、学びの掛け算による新たな価値の創造を検討し、今後も総合大学の強みを生かした全学的な教育プログラムの充実を図る。

(5) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価および産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

現時点では、本プログラム修了者の進路、活躍状況及び企業等の評価について材料がないが、応用基礎レベルまでの修了者が発生する令和8年度卒業生から、IR課が行う「卒業生調査」などを活用しつつ、本学学生の就職先企業へのヒアリングやアンケート調査等を実施することを検討している。

(6) 数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることおよび内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

受験科目に数学が必修化されていない文系学部の学生のレベルに合わせ、数理・データサイエンス・A I を「学ぶ楽しさ」と「学ぶことの意義」を理解させることを最優先課題としてオリジナルの教材などを用いるような工夫をしている。また、授業評価アンケート等の意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から授業の内容・実施方法の見直し等を引き続き進めていきたい。

以上